

27年9月議会

平和祈念資料館の果たすべき役割と展示

## 質問

皆さん、おはようございます。きょうも爽やかな朝ですね。

吹田新選会、足立将一、会派を代表して質問させていただきます。

さきの国会で安全保障関連法案が可決されました。世界におけるアメリカの影響力が低下しつつある現在、アメリカとの同盟及び核の傘のもと守られてきた我が国の平和が転換点にあることは明白であり、その中でこの安全保障問題が国民的な議論になったことは歓迎すべきことです。

憲法前文には、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してとあるところ、現実世界では中華人民共和国によるフィリピンやブータンの領土侵略や南沙諸島での軍事目的の滑走路建設、尖閣諸島や小笠原諸島周辺での我が国への領海侵犯、ウイグルやチベットでの弾圧、台湾への野心、朝鮮民主主義人民共和国の日本海に向けてのミサイル発射訓練や核開発など、諸国民、特に近隣諸国の公正と信義が信頼できない状況となっております。

戦争反対と叫ぶことも大事かもしれませんが、それだけで平和となれば苦労はございません。国際情勢を直視し、自国の外交力及び政治力で、今後も平和を維持していく努力が不可欠となっております。

民主主義国家にとって最も恐ろしい世論の力、大東亜戦争時において最も戦争をあおった世論が、現代日本において暴走しないよう、国民一人一人が思考停止に陥らず、平和を維持するために何が必要かを真剣に考えてこそ平和国家として日本があり続ける手段であります。

今回は7月定例会で申し上げました、教育において重要な縦軸と横軸の育成のために必要な施策について提案させていただきます。

まずは、過去を知り、未来に思いをはせる縦軸の部分、歴史を学ぶツールとしての平和祈念資料館のあり方についてです。

平成23年12月の人権文化部長の答弁では、施設運営について、二度と戦争を起こさないよう、日本が戦争に至った原因や背景などを市民の皆様とともに考えることができるような施設となるように、資料の展示方法について工夫していきたいという答弁をいただいておりますが、実際の施設においては、さまざまなイベントや展示方法の工夫が見られるものの、答弁でいただいたような状況ではないことが現状です。

そんな中、ことしの4月、我が市の平和祈念資料館移設の際に参考としたとしている大阪府の施設、ピースおおさかのリニューアル工事がなされ、ホームページには次の文言が書かれています。戦争の悲惨さを知り、体感しさえすれば、それで平和が訪れるものではありません。平和とは何か、そのために何をすべきか、何ができるかを、私たち一人一人が考え、今できることを地道に実現に移すことが求められていますと。

実際に視察させていただいた中では、当時の世界情勢や戦争に至った経緯がまとめられ、その後、米軍の戦争犯罪である8度の大阪への無差別爆撃の詳細な説明など非常に勉強となるものでした。単に戦争の悲惨さや当時の生活を知るだけでなく、平和の実現のために一人一人が何をできるか考えるきっかけを与えてくれる場所になりつつあります。

我が市の吹田市立平和祈念資料館もあと二歩も三歩も踏み込むべきではないでしょうか。学校でも学べるような展示内容であれば多額の税金をかけて施設運営をする必要はなく、博物館において企画展を開催するなどの別の手法を考えるべきです。ピースおおさかを参考にいま一度展示のあり方を見直すべきであると考えますが、担当部局のお考えをお聞かせください。

### 小西義人人権文化部長

平和祈念資料館では、約3,500点の市民から寄贈された戦前、戦中、戦後に係る実物資料を、子供から大人まで、誰もがわかりやすいように工夫しながら、常設展示を行っております。今後も、より効果的な展示を行うために、資料館の役割であります戦争の悲惨さや戦争に至った背景などを理解し、平和に対する意識が深められるような、例えば、よりテーマを鮮明にした展示や、平和について考えるきっかけとなるよう、身近な問題に関する展示の充実など、限られたスペースではありますが、ピースおおさかなど、他の類似施設にも学びながら運営してまいりたいと考えております。

以上でございます。

### 質問

また、答弁でいただきました、戦争に至った背景などを理解しという部分を特に重視していただければと思います。

SEALDsという若者が中心とされる団体が安全保障関連法案に反対しデモ活動を行い、マスコミが注目いたしました。

結果として、朝日新聞への1,000万円はかかるであろう意見広告の掲載やホームページの内容を見ておりますと、某政党と極めて密接な関係が類推されるのですが、大切なのは、学びて思わざればすなわちくらし、思いて学ばざればすなわちあやうしであります。我が国が平和であり続けることを願い、行動することは大切ですが、それを実現するために具体的に必要なことを我々は知識として体得する必要があります。

本来ならば学校教育でそのようなこともできればよいのですが、それができない以上、補足あるいはさらに深いことを学ぶきっかけとして平和祈念資料館があるべきだと考えますが、その必要性及び現在平和祈念資料館がそのような役割を果たしているかについて担当のお考えをお聞かせください。

### 小西義人人権文化部長

平和祈念資料館の必要性及び現在果たしている役割でございますが、多くの市民からの実物資料の寄贈にもございますように、市民の平和への意識や願いを無駄にしないためにも、平和への思いを後世につないでいくための施設として必要であり、そういった役割を果たしていけるよう取り組んでいるところでございます。

来館者のアンケートにおきましても、子供にわかりやすく展示されている、戦争を知らない年齢だが考えるきっかけになったなどの感想がある一方、子供の目線から捉えた企画をしてほしい、もっともっと伝えていく取り組みをしてほしいなどの声もいただいております。

そのため、現在も、職員が工夫をしながら、子供たちの平和を考える場としての活用を呼びかけ、学童保育や保育園などに利用していただく一方、多くの子供たちにも資料館を知っていただくためのイベントとして、七夕ササ飾りや折り紙を使ったワークショップなど、子供にも参加しやすいイベントを開催し、来館者の誘致や戦争や平和への関心を高めるための取り組みを進めているところでございます。

先ほども御答弁申し上げたところでございますが、本市といたしましては、平和を考えるきっかけづくりだけではなく、平和祈念資料館のもう一つの役割でもあります戦争の悲惨さや戦争に至った背景など、平和に対する意識を深めていただけるような取り組みにも、引き続き力を注いでまいります。

以上でございます。

## 意見

多額の税金をかけて運営する施設です。私のもとで勉強する学生は必ず連れて行くことにしておりますが、見学の後、運営費を伝えると必ず言葉を失います。限られたスペースではありますが、より多くの気づきや学びを与えてくれる施設になっていただきたいのです。歴史や平和に関してはイデオロギーが絡むので公共施設での展示が難しいというのであれば、両論併記すればよいのです。さきの大戦が東京裁判での連合国側の認識である日本のアジアへの侵略ということを書くのであれば、その裁判で東條英機元総理が弁論された、支那事変の目的が防共と経済提携とによって日本と中華民国の国交を調整し、東アジアの安定を回復しようとしていたことや、それが米英ソによって妨害されていた事実。第1次世界大戦後の講和会議において、我が国が国際連盟規約中に人種平等主義を挿入することの提案をしたにもかかわらず、列強により葬り去られ、アジア民族が大いなる失望を感じたこと。大正11年のワシントン会議においては、東アジアの植民地状態、半植民地状態、当時は日本、タイを除いてほぼ全てのアジア諸国が植民地とされておりました。その状態が九カ国条約により再確認を与えられた結果となり、東アジアの解放を願う東アジア民族の希望と反する国際情勢になっていたとのことも書くべきです。

今後も、担当部局で市民が、戦争に至る経緯や、平和を守るために何が必要か、それをしっかりと自分たちの頭で考えられる平和祈念資料館のあるべき姿、それを検討し、改善し

ていただくことを要望いたします。